

公表	事業所における自己評価総括表(児童発達支援)
----	------------------------

○事業所名	アストラポルテFC筑西			
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数)	1
○従業員評価実施期間	令和8年2月1日		～	令和8年2月28日
○従業員評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<b>支援の質と職員連携の高さ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援プログラムの作成・公表、児童発達支援計画の作成・共有、日々の記録など、支援の基本的な枠組みがほぼ全員で徹底されている。</li> <li>・ 朝のミーティングで毎日の役割分担を確認し、チームで連携して支援にあたっている。</li> <li>・ モニタリングや計画の見直しも全員が実施しており、PDCAが機能している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援終了後の振り返りが当日にできていないケースがある。翌日実施で補っているが、情報の鮮度や共有の即時性という観点からは課題が残る。当日実施を目指した業務フローの検討が望ましい。</li> </ul>
2	<b>保護者対応・説明体制の充実</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運営規程・支援プログラムの説明、計画同意の取得、相談対応体制の整備など、保護者への説明・連携に関する項目はすべて6/6で実施済み。</li> <li>・ 毎月の通信発行やHP・SNS活用による情報発信も全員が実施しており、保護者との継続的なつながりが保たれている。</li> <li>・ 親子参加型イベントや親子サッカーなど、保護者同士・きょうだいの交流機会も積極的に設けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある子どもや保護者への意思疎通・情報伝達の配慮について1名が「いいえ」と回答しており、個別対応のさらなる強化が求められる。</li> <li>・ 配慮の具体的な方法（視覚支援ツール、コミュニケーションボードなど）を組織的に整備することで、個人差をなくす取り組みが有効。</li> </ul>
3	<b>安全管理・緊急時対応の徹底</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事故防止・緊急時・BCP・安全計画など、安全管理に関する全項目で実施。定期的な訓練も継続的に行われている。</li> <li>・ ヒヤリハットの共有と再発防止策の検討も全員で実施しており、安全文化が根付いている。</li> <li>・ 虐待防止研修・身体拘束に関する手続きも全員が把握・実施している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食物アレルギー対応について1名が「医師の指示書がないがアレルギーに気をつけている」と回答（いいえ）。医師の指示書に基づく対応が徹底できていないケースがあり、保護者・医療機関との連携強化と書類整備が必要。</li> </ul>

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<b>施設のバリアフリー対応不足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q3（構造化環境・バリアフリー化）が7人中3人いいえ。「階段が急」「バリアフリー化されていない」との意見が複数あり、環境整備面での課題が明確。</li> <li>・ 障害特性への配慮という点でも、物理的なバリアが残っていることは支援の質に直結する問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存建物での根本的な改修は困難だが、手すりの増設・コンセントカバーの設置・スロープの活用など、できる範囲での安全対策を計画的に実施する。</li> <li>・ 現状の制約を保護者に丁寧に説明し、代替措置（移動サポート等）を明示する。</li> </ul>
2	<b>第三者評価・外部評価の未実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q9（第三者による外部評価）が7人中3人いいえ、「わからない」との回答もあり、外部の視点での評価が機能していない。</li> <li>・ 内部だけの評価では客観性が担保しにくく、保護者や地域への説明責任という観点でも課題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まずは第三者評価の実施要件・費用・手順を管理者が把握し、年度計画に組み込む。</li> <li>・ 外部評価が難しい場合でも、他事業所との相互訪問や自治体の評価支援制度の活用を検討する。</li> </ul>
3	<b>地域交流・地域への開放不足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q32（保育所・幼稚園等との交流や地域での活動）が7人中4人いいえ、「地域交流の活動が難しい」との意見あり。</li> <li>・ Q44（地域住民を招いた行事等の実施）は7人中5人がいいえ。地域に開かれた事業運営がほとんど実施できていない状態。</li> <li>・ インクルージョン推進という支援理念とのギャップが大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の保育所・幼稚園との連絡会や合同行事への参加から始め、小さな接点を積み重ねる。</li> <li>・ 地域の祭りや公園での活動など、日常の中での地域参加機会を意識的につくる。</li> <li>・ 地域住民向けに事業所の活動を発信する機会（見学会・通信の配布等）を設ける。</li> </ul>
4	<b>保護者評価の業務改善への活用不足</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q7（保護者向け評価表の内容を業務改善につなげているか）が1人いいえ。意見欄に「みんなで集まっての意見把握はしていない」とあり、評価結果が組織として共有・活用されていない。</li> <li>・ 評価を集めて終わり、になっているリスクがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者評価の結果を職員全体で共有する場（ミーティング等）を定期的に設ける。</li> <li>・ 評価結果をもとに改善策を検討し、次年度の取り組みに反映するサイクルをつくる。</li> </ul>